

## 第1号議案

# 令和元年度事業報告・決算について

### I. 概要

#### 1. 令和元年度事業活動の概要

AI や IoT、ロボット、ビッグデータ、5G、DX（デジタルトランスフォーメーション）、量子技術など技術革新は目を見張るものがあり、「第4次産業革命」、「Society5.0」といった言葉が様々な場面で登場し、社会や産業界を取り巻く環境は劇的に変化している。一方、人口減少や高齢化、社会保障制度改革、経済・雇用のグローバル化、長期化するデフレ経済、米国と中国との貿易対立など、日本国内外で様々な課題が山積しており、大胆かつ創造性に富む行動が求められている。

このような中、令和元年度の栃木県経済同友会は、公益社団法人としての使命を肝に銘じ、栃木県産業及び地域社会の発展に寄与すべく、「大転換期における“新価値創造”」を指針に、時代の潮流を確実に捉えながら、会員の英知とエネルギーを結集し、委員会事業や社会貢献事業などの公益目的事業を中心に、中国杭州市やカンボジアをはじめ京都府、大阪府、滋賀県、奈良県、広島県、千葉県、群馬県などの先進地視察を実施するとともに、専門家を招いて講演会・座学を積極的に行うなどそれぞれのテーマについて深く調査・研究を進めた。

しかし、2019年11月に中国武漢市で発生が確認された新型コロナウイルス（COVID-19）による感染は世界各地に拡大し、栃木県内においてもサプライチェーンの停滞により製造業等の生産活動に影響を及ぼすとともに、国内外の旅行者のキャンセルや飲食の自粛などによりサービス産業にも打撃を与えた。当会においても年度末の3月には感染症防止対策のため、委員会やセミナー、シンポジウム等の中止や延期を余儀なくされるなど、グローバル経済の中での感染症のリスクを改めて思い知らされたところである。

以上のとおり感染症拡大防止への対応はあったものの、年間を通じて積極的に活動を展開した結果、経常収益の合計 68,919,731 円に対し、経常費用は 74,511,476 円となった。

このうち、公益目的事業費用 45,227,862 円は、同収入 33,546,295 円を上回る場所となり、また、経常費用に対する公益目的事業費用の割合は 60.7% となり「公益社団及び財団法人の認定に関する法律」に定める収支相償（公益目的事業に係る収入が、その実施の費用に要する適正な費用を償う額を超えないこと）及び公益目的事業比率（50%以上）の要件に適合した。

## 2. 委員会事業の運営

公益目的事業の大きな柱である委員会事業では、委員会及び研究会が地方創生に資するため、地域社会の抱える様々な経済問題や社会問題をテーマに設定し、本年度から2年間に渡る調査・研究活動を開始し、それぞれの委員会・研究会で活発な調査研究が行われた。

企画運営委員会では、各事業を円滑に推進するための企画・立案等を行った。

## 3. 社会貢献事業の運営

委員会事業と並ぶ公益目的事業として、下記のとおり社会貢献事業を実施した。

### (1) ボランティアプロフェッサー事業

大学コンソーシアムとちぎとの協定に基づき、宇都宮大学、白鷗大学及び作新学院大学の3校へ延べ25名の講師を派遣した。

### (2) 講師派遣事業

中学校、高等学校等合わせて27回実施し、延べ39名の講師を派遣した。

### (3) 表彰事業

会員と外部委員で構成される表彰選考委員会を開催し、優秀経営者賞に1名、優秀起業家賞に1名、社会貢献活動賞に1団体、美しいまちづくり賞に1団体を選定した。

### (4) その他の事業

栃木県教育委員会からの依頼に基づき、教員の社会体験研修受入事業、教員採用試験面接委員派遣事業等を例年どおり実施した。

また、栃木県産業振興センターなど関係団体とともに実行委員会を組織し、新春経済団体講演会を開催した。

## 4. 講演会事業の運営

一般県民等を対象にした公益目的の演会等を次のとおり6回開催し、県民の経済問題や社会問題、文化芸術等への関心を高めた。

### ①県との共催講演会

開催日：5月14日（火）

演題：「頑張れ日本の中小企業」

講師：橋本 久義 氏（政策研究大学院大学名誉教授）

### ②第1回講演会

開催日：6月21日（金）

演題：「がんばらない」けど「あきらめない」～生きることの意味～

講師：鎌田 實 氏（医師・作家）

### ③県との共催講演会

開催日：7月20日（土）

演題：「画家のセルフ・ブランディング」

講師：林 洋子 氏（美術史家）

④国際化推進委員会提案講演会

開催日：8月7日（水）

演題：新しい就労ビザ「特定技能」の導入背景

講師：崔 聖植 氏（崔国際行政事務所 行政書士）

⑤新春経済団体講演会

開催日：1月22日（水）

演題：誰も語らない日本経済の行方 輝く地域、輝く企業は？

講師：渋谷 和弘 氏（作家・経済ジャーナリスト）

⑥第2回講演会（産業政策委員会提案講演会）

開催日：1月30日（木）

演題：地球と共存する経営

講師：小林 喜光 氏

（株）三菱ケミカルホールディングス取締役会長／公益社団法人経済同友会前代表幹事）

## 5. 会員研修事業・親睦会事業

会員研修事業として、モーニングセミナーを9回、サマーセミナー、新年例会を、また、全国の経済同友会の共同事業である「第32回全国経済同友会セミナー」をはじめ、「4経済同友会交流会」、「全国経済同友会代表幹事円卓会議」等に参加した。

※モーニングセミナーに関しては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から3月分のセミナーを中止した。

また、親睦会事業として、ゴルフ大会及びサマーセミナーエクスカージョンを実施し、会員の親睦を深めた。

## 6. 会員の推移

本会の求心力・発信力を高めるため、引き続き入会促進活動を積極的に展開した。

令和元年度は、新会員9名を迎え、年度末の正会員数は277名となった。

## II. 活動状況

### 1. 総会（法人管理）

6月21日に宇都宮東武ホテルグランデにおいて令和元年度総会を開催した。総会議長には定款第15条に基づき、小林辰興筆頭代表理事が選任された。

議案と報告事項は以下のとおりであり、第1号議案では、平成30年度事業報告・決算について審議がなされ承認された。また第2号議案では18名の理事、2名の監事が新たに選任され、議案は全て原案通りに可決された。議事録署名人は、定款第18条に基づき総会議長である小林辰興筆頭代表理事が務めた。

	開催日	内 容
1	6月21日	議 題：①平成30年度事業報告・決算について ②役員を選任について 報 告：①令和元年度事業計画について ②令和元年度収支予算について

### 2. 理事会（法人管理）

定款第26条に基づき筆頭代表理事、代表理事、専務理事及び理事によって構成される理事会を、次のとおり6回開催した。また理事会には、当会の業務、財産の状況等を調査、監査する監事が出席した。

なお、ガバナンス強化の観点から、筆頭代表理事、代表理事及び専務理事の業務執行状況について4か月を超える間隔で2回以上理事会に報告することが求められており、本年度は5月及び12月に行った。

また、6月21日に開催した理事会では、筆頭代表理事に中津正修理事、代表理事に藤井昌一理事を選任した。さらに11月27日の理事会では代表理事に松下正直理事を選任した。

各回の議案及び報告事項は下記のとおりである。

	開催日	内 容
1	5月16日	議 題：①平成30年度事業報告について ②平成30年度決算について ③財産の取得について ④幹事の選任について ⑤令和元年度総会の開催について ⑥会員の新規入会について 報 告：①平成30年度下期の理事の業務執行状況について ②会員の異動について ③その他

2	6月21日	議 題：①筆頭代表理事、代表理事及び専務理事の選定について ②名誉理事の委嘱について ③名誉会員の委嘱について ④特別功労者について
3	10月24日 (書面開催)	議 題：①会員の新規入会について
4	11月27日	議 題：①代表理事の選定について
5	12月12日	議 題：①令和2年度事業活動方針・予算策定方針について ②会員の新規入会について 報 告：①令和元年度上期の理事の業務執行状況について ②会員の異動について ③その他
6	3月25日 (書面開催)	議 題：①令和2年度収支予算について ②令和2年度事業計画について ③会員の新規入会について ④名誉会員の委嘱について ⑤会議室取得及び事務室等設備改修工事に伴う減価償却引当資産の計上について 報 告：①会員の異動について

### 3. 幹事会（法人管理）

幹事会規程に基づき設置した幹事会を、次のとおり3回開催した。

各回の議案及び報告事項は下記のとおりである。

	開催日	内 容
1	5月16日	議 題：①平成29・30年度各委員会・研究会の活動報告書について ②平成30年度事業報告について ③平成30年度決算について
2	12月12日	議 題：①令和2年度事業活動方針・予算策定方針について 報 告：①令和2年度総会、理事会・幹事会等の開催日程 ②その他
3	3月17日 (書面開催)	議 題：①令和2年度収支予算について ②令和2年度事業計画について

		報 告：①公益社団法人栃木県経済同友会規程の一部改正等について ②参与の採用について
--	--	---

#### 4. 企画運営委員会（他2：共益事業）

企画運営委員会設置運営要領に基づき、当会の事業を円滑に推進するため企画運営委員会を、次のとおり6回開催した。

各回の議案及び報告事項は下記のとおりである。

	開催日	内 容
1	4月9日	議 題：①令和元年度企画運営委員会活動計画（案）について ②令和元年度第2回ゴルフ大会（案）について 報 告：①第32回全国経済同友会セミナーについて ②令和元年度サマーセミナーについて ③未来経営研究会新事業について
2	7月11日	議 題：①報道機関との意見交換会（案）について ②親睦会事業（企画案）について 報 告：①令和元年度サマーセミナーについて
3	9月10日	議 題：①12月の企画運営委員会の開催場所（案）について 報 告：①第5回4経済同友会交流会について ②新春経済団体講演会について ③親睦会事業「フェスティバル in オータム」について ④新入会員勧誘について ⑤プロスポーツ観戦事業について
4	11月13日	議 題：①令和2年度事業活動方針・予算策定方針（案）について ②「とちぎ子どもの未来創造大学」PU支援事業（案）について ③ペーパーレス化の推進（案）について 報 告：①新年例会について ②令和2年度総会、理事会、幹事会等の開催日程について ③新入会員勧誘リストについて ④令和元年度委員会・研究会活動状況について ⑤表彰事業について
5	12月10日	議 題：①正副委員長会議の取扱いについて
6	2月10日	議 題：①令和2年度事業計画（案）について

		②令和2年度収支予算（案）について ③令和2年度サマーセミナー（案）について ④令和2年度ゴルフ大会（案）について ⑤第6回 新潟・埼玉・群馬・栃木 4 経済同友会交流会（案）について 報 告：①新入会員の勧誘状況について
--	--	---

## 5. 委員会事業（公1：公益目的事業）

(1) 産業政策委員会（活動テーマ「活力ある栃木の産業構造を創造する～とちぎの産業の持続的発展を目指して～」）

委員長 内藤 靖  
 副委員長 加藤 潔、関 雅樹、野田 和郎、長谷部 周彦  
 平野 一昭、松永 建太、吉田 範行  
 事務局担当 伊澤 渉

### <活動方針>

Society5.0、Connected Industries 等、政府が推奨する未来型社会に向かって、これからの時代は急速に発展・変化を遂げていく。それに伴い、産業構造も大きく変化する必要があり、既存のビジネスモデルでは立ち行かなくなってしまう可能性がある。

産業政策委員会では、産業の持続的発展のため、これからの変化に対応すべき課題を調査研究し、未来型社会でも活力ある栃木県を実現するための施策等を提言するために調査研究を行う。

### <活動概要>

#### ①講演会の開催（5月29日 第1回委員会）

内閣官房日本再生総合事務局次長の平井裕秀氏から、「Society5.0」と題して、国が推し進める成長戦略全般の講話をいただいた。社会課題解決にテクノロジーを利活用して、イノベーションと社会実装を重点的に推進していこうとしている具体的な取組についてお話しいただき、大変参考になった。

#### ②栃木県の取組について（講話）（7月19日 第2回委員会）

栃木県産業労働観光部次長兼産業政策課長の橋本陽夫氏から、「第4次産業革命への対応と本県の産業施策」と題して、講話をいただいた。栃木県の現状の先端技術の活用状況等について、関心や興味がない企業が多いことや高度人材の育成の必要があることについてお話しいただいた。講話後、NTT東日本、NTTドコモの取組事例を紹介していただき、知見を高めた。

③グループディスカッション（9月17日 第3回委員会）

これまでの委員会を振り返り、委員同士でのグループディスカッションを行った。これまでの委員会活動で感じたことや提言に向けて学んでいくポイントを中心にグループで話し合い、その後、発表を通して委員同士での情報共有を図った。また、公益社団法人経済同友会の提言「Japan2.0」、著書「危機感なき茹でガエル日本」の事前勉強会を行った。

④海外視察（中国杭州市 12月4日～7日 第4回委員会）

海外視察として、ICTの先進事例を学ぶため、栃木県の友好交流都市でもある「浙江省杭州市」へ視察を行った。視察先は、AI、IoTを駆使したEコマース企業やドローン、人材育成等について学び、計11社の視察を行った。今後、日本がSociety5.0に向けて取組を進めていく中で、懸念事項やチャレンジできる環境や規模の大きさ等について先進事例を数多く学ぶことができた。

⑤講演会の開催（1月30日 第5回委員会）

第2回講演会として、㈱三菱ケミカルホールディングス取締役会長／公益社団法人経済同友会の前代表幹事である小林喜光氏に「地球と共存する経営」と題し、ご講演をいただいた。小林氏が経済同友会の代表幹事の時に提言した「Japan2.0」の提言の内容から3次元での考え方や日本が他国に比べて危機感を感じなければいけない点について言及していただいた。その中で、教育についても、日本は留学や論文が少ない点について指摘していただき、競争力強化のためには、こういった点についても力を入れていく必要がある旨、お話しいただいた。

⑥杭州市報告会、グループディスカッション（2月20日 第6回委員会）

第4回委員会、第5回委員会の復習を行った。報告会後には、提言に向けて委員同士の情報共有を図るべく、「5年後、10年後に描く栃木県の産業構造のイメージ」をテーマにグループディスカッションを行った。

(2) 地域振興委員会（活動テーマ「広域連携による新・観光圏の構築」～栃木県を拠点とした新たな観光周遊ルートの形成～）

委員長 郡司 祐一

副委員長 木内 久生、郡司 成江、酒井 誠、平野 政樹

事務局担当 長谷 智子

<活動方針>

本県は、首都圏に近く、東北地方の玄関口であり北関東3県の中央に位置する。交通網も、東北自動車道・北関東道が交差し、福島・茨城・成田空港に近



く、立地条件の優位性や交通の利便性を活かしながら、新たな観光圏の構築に向けて広域での連携強化を目指すとともに、地域の観光資源を活かした滞在コンテンツの充実や魅力あるテーマ・ストーリーを持ったツーリズムの提供等、栃木県を拠点とした知られざる新たな観光周遊ルートの形成に向け調査研究を行う。

#### <活動概要>

##### ①現状認識（7月18日 第1回委員会）

ジャパン・ワールド・リンク㈱代表取締役／CEOの宮地アングス氏に「北関東4県の共通したインバウンドの課題と広域連携の可能性」、栃木県産業労働観光部観光交流課インバウンド推進担当GLの大貫大輔氏に「栃木県のインバウンド施策について」と題し講話をいただいた。

講話終了後、参加者を4グループに分け「観光周遊ルートづくり」と「滞在コンテンツをつくろう」をテーマにグループディスカッションを実施した。それぞれのグループ議長を中心に闊達な議論が交わされた。最後に各グループのディスカッションの内容を発表し情報を共有する等、今後の委員会活動に繋がる内容となった。

##### ②広域連携先進地視察（広島県他10月31日～11月2日 第2回委員会）

広域連携でのインバウンド誘客増加に向けて広域連携先進地である「せとうちDMO視察」を実施した。

訪日外国人を地方に長期滞在させるためには、広域連携の強みを活かし、外国人が見たいもの、聞きたいものを見極め、その人たちに届く方法で届けていくマーケティングの基本を地道に実行していくことが必要であると実感した。

##### ③コト消費先進地視察（群馬県 11月28日 第3回委員会）

豊かな自然を活かした体験型ツアーなど、コト消費でインバウンド誘客に力を入れている群馬県みなかみ町を視察した。

みなかみ町内に約30社のアウトドアツアー会社があり、特にインバウンド客を誘客している「キャニオンズみなかみ」代表のマイク・ハリス氏に講話いただいた。コト消費を実現するには、地域資源は重要なコンテンツであり、周辺地域との連携も大切であることがわかった。インバウンド市場が地方に波及していき、結果、コト消費が実現すれば周辺施設への経済波及効果も高まり地域活性化に大きく貢献するものであると実感した。

#### (3) 経営問題委員会（活動テーマ「後継者育成、人財育成を考える～企業の持続的成長を目指して～」）

委員長 平野 一昭

副委員長 石川 英明、木内 久生、田村 篤史、内藤 靖、  
中山 文仁  
事務局担当 菊池 清人

#### <活動方針>

中小企業・小規模事業者の事業承継問題は、現在の日本において大変深刻な状況になっている。また、企業の持続的成長のためには、人財の育成・雇用が重要であり、各経営者が事業の将来を見据え、この問題に取り組んでいくことが急務であると考えます。そこで、次世代を担う後継者・人財を育成していくためには、どのような対応をしていくべきか。今後の日本企業の持続的成長を目指すために求められる方策について調査研究を行う。

#### <活動概要>

##### ①中小企業の事業承継問題について（講話）（7月3日 第1回委員会）

栃木県事業引継ぎ支援センター統括責任者の山崎浩之氏から、中小企業の事業承継問題の現状と支援策、事業承継に向けたステップ等を学んだ。

具体的な成功例と失敗例に基づいた説明は非常にわかりやすく、今後の調査研究の方向性を定める上で、大変有意義なものとなった。

##### ②とちぎ女性・高齢者等新規就業支援事業企業セミナー開催（10月15日第2回委員会）

栃木県、宇都宮市と共催で、「人手不足時代の人材採用と育成」と題したセミナーを開催した。基調講演では、2012年に「日本で一番大切にしたい会社大賞を受賞し、キャリア支援等、人にフォーカスした経営を行っている(株)山岸製作所の取組について、山岸社長より講和いただいた。経営ビジョンの策定や全員参画経営等の取組は、非常に参考となるものであった。

##### ③先進企業視察（大阪府・京都府 2月6日～8日 第3回委員会）

グッドキャリア企業アワード受賞企業等の取組を学ぶため、「大阪・京都視察」を行った。グッドキャリア企業アワードを受賞した川相商事(株)、(株)ナンゴー、宇治茶の老舗企業である(株)堀井七茗園の各代表者から、人材育成等の取組をお聞きした。各社とも、人材育成に対して企業全体で真剣に取り組んでいることが感じられた。

#### (4) 社会問題委員会（活動テーマ「“健康長寿県 とちぎの実現”～疾病予防・健康づくりに向けて～）

委員長 吉田 元

副委員長 石川 尚子、上野 勝弘、関 雅樹、早川 雄基、森田 一穂

事務局担当 鈴木 真悟

### <活動方針>

人生100年時代の到来と言われる中で栃木県の平成27年の平均寿命は男性80.10歳（全国42位）、女性86.24歳（全国46位）と全国の中でも下位に低迷しており、この傾向は長期にわたって変化していない。そのような状況を挽回すべく、全ての源泉である「人」の健康に着目し、“健康長寿県 とちぎ”の実現に向けて、予防医療や健康づくりについて調査研究を行う。

### <活動概要>

#### ①栃木県の現状把握（5月24日 第1回委員会）

栃木県保健福祉部健康増進課長の柏瀬 仁氏から、栃木県の最も多い死因であるがんについて「栃木県のがん対策について」を演題とし、予防方法や取組について講話いただいた。

#### ②専門医師講話（8月1日 第2回委員会）

栃木県立がんセンター食道胃外科科長の松下尚之氏から、がんの中でも感染症を発生要因とする「胃がん」について、「胃がんの予防 H. pylori は除菌する価値があるか？」を演題とし、胃がんやピロリ菌感染症について講話いただいた。

#### ③先進企業視察（11月6日 第3回委員会）

経済産業省および東京証券取引所が共同で認定する「健康経営銘柄」に5年連続で選定された花王(株)栃木工場や、現在の医療に欠くことのできない、X線診断装置などの画像診断機器において、圧倒的なシェアを誇るキヤノンメディカルシステムズ(株)を訪問し、国内でもトップクラスの健康経営への取組や医療技術を視察した。

#### (5) 国際化推進委員会（活動テーマ「グローバル人財に選ばれるとちぎづくり～県内企業の活力に繋がる外国人受入体制構築に向けて～」）

委員長 石川 尚子

副委員長 郡司 成江、田村 篤史、陳 賢徳、内藤 靖、  
益子 博美、吉田 元

事務局担当 飯田 夕貴

### <活動方針>

人手不足が深刻な実態にあわせ、政府は外国人労働者の受入を拡大する方針を示したが、他方で現在の体制を懸念する声もある。そこで、外国人労働者を含むグローバル人財が能力を最大限発揮できるような環境をどのように整備すべきか等、受入の「数」のみではなく様々な側面から「質」の向上も調査研究していく。価値観や視点の異なる人財がもつ多様な発想力や知識、

技術を活かしながら、県内企業の更なる発展を目指して活動する。

#### <活動概要>

##### ①講演会（5月27日 第1回委員会）

栃木県産業労働観光部国際課長の上崎純一氏より、改正入管法（新在留資格「特定技能」）について、また栃木県における外国人材雇用の現状を説明いただき、今後の活動の方向性について意見交換を実施した。

##### ②外国人材受入れシンポジウム（8月7日 第2回委員会）

外国人受入れの実務から体制構築まで委員会としてどのように取り組むべきかを考えるため、2部構成でシンポジウムを開催した。

第1部は、崔国際行政事務所行政書士の崔聖植氏に講演いただき、「特定技能」ビザの導入背景や「技能実習」ビザとの相違点等を説明いただいた。

第2部は、『県内企業の活力に繋がる外国人受入体制構築に向けて』をテーマにパネルディスカッションを実施し、栃木県内の特定技能外国人を増やすため、受入れにあたり起こる問題点や解決策・今後の目指す姿を考える機会とした。

コーディネーター：松金 公正 氏（宇都宮大学国際学部教授）

パネリスト： 佐藤 伸之 氏（佐藤建設工業(株)取締役副社長）

佐野 稔 氏（(株)タスク人事総務部長）

石川 尚子 氏（オリオンコンピュータ(株)代表取締役）

崔 聖植 氏（崔国際行政事務所／行政書士）

##### ③海外視察（カンボジア 1月22日～26日 第3回委員会）

日本へ人材を送り出しているカンボジアのキリロム工科大学やカケハシインターナショナルを訪問。高度人材と技能実習生というそれぞれ異なる人材を送り出す学校を視察し、授業の見学や学生・教師との意見交換を通して、今後の委員会活動に向け多くの学びを得ることができた。

##### (6) 社会貢献活動推進委員会（活動テーマ「持続可能な社会を創造する担い手の育成～産学官連携体制の構築に向けて～」）

委員長 田村 晃

副委員長 古口 勇二、武田 浩之、名村 史絵、村木 優実子

事務局担当 鮎川 敬太

#### <活動方針>

持続可能な社会の創造が叫ばれる中、県の更なる発展には主体的に解決できる青少年の育成が求められており、それに繋がるキャリア教育支援体制の構築が緊要である。そのためには、効果的なプログラムの開発と、核となる人材の

養成・活用が必要である。そこで、県の発展の担い手となる逞しい青少年の育成を目的に、産学官が連携して取り組むより具体的な教育体制の在り方等について調査するとともに、実践していくべき社会貢献策を研究する。

#### <活動概要>

##### ①講師派遣事業の実施（4月～3月）

将来を担う「人財」の育成のための具体的な行動として、「講師派遣事業」を実施した。学生・教員等を対象に教育現場に出向き、出張授業・講演会を実施した。小学校1校、中学校17校、高等学校7校及び校長会・教頭会合わせて27講演を実施し、延べ39名の講師を派遣した。

##### ②教育担当委員会交流会の実施（6月13日）

令和元年度5経済同友会（群馬・新潟・中部・富山・栃木）教育担当委員会交流会が群馬県で開催され、各地経済同友会の活動報告、教育に関わる課題等を議論した。

##### ③講演会（8月27日 第1回委員会）

本委員会では、話しことば実践講座と題し、話し方を学ぶことで講話や授業でのスキルアップを図っている。今年度はNHK宇都宮放送局アナウンサー加藤成史氏を迎え、「講話や授業における話し方」をテーマにお話いただき、大変参考になった。大勢の会員が参加し、盛況であった。

##### ④先進地視察（福井県 11月19日～20日 第2回委員会）

キャリア教育の先進的な取組みについて学ぶため、産学官の各視点から先進的な取組を行っている福井県の視察を実施した。産学官連携での様々な取組の説明や授業見学・施設案内等の教育現場の視察は、今後の委員会活動において大変参考となる視察となった。

##### ⑤「とちぎ子どもの未来創造大学」連携事業（11月）

県教育委員会生涯学習課が実施している、「とちぎ子どもの未来創造大学」事業について、より充実したキャリア教育支援体制を整えるため、令和2年度から県教育委員会と連携し事業を実施することとしたため、会員に対し事業の柱となる「本物」体験講座の開設について協力を依頼した。

#### (7) 行財政改革委員会（活動テーマ「行財政の効率化と適正化～人口動態の変化に向けた方策～」）

委員長 岩見 高士

副委員長 大曲 圭一郎、加藤 潔、深澤 雄一

事務局担当 菊池 清人

<活動方針>

日本では少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えている。勤労世代の激減に伴い社会の支え手が不足し、税収不足等の諸問題が顕在化することにより、社会は大きな変化を余儀なくされる。そのような状況下、行財政は一層の効率化と適正化が求められることから、行財政の現状を分析して、効率化策等について調査研究を行っていく。

<活動概要>

①広域連携のあり方について（講話）（6月26日 第1回委員会）

総務省市町村課課長補佐の光永祐子氏から、今後の広域連携のあり方について学んだ。今後の人口動向を踏まえた自治体戦略2040構想研究会での議論の状況や、自治体行政の考え方、新たな広域連携についてお聞きしたが、各自治体の取組状況は、大変参考になる意義深い内容であった。

②栃木県における広域連携の取組について（講話）（9月18日 第2回委員会）

栃木県の取組状況を確認するため、栃木県総合政策部次長兼市町村課長の熊倉精介氏、地域振興課長の小野寺一行氏から、広域連携制度の概要や取組状況について学んだ。県の市町村に対する支援状況、「圏域」単位の行政のあり方についての県の考え等をお聞きしたが、今後の調査研究の方向性を定める上で、大変有意義なものとなった。

③先進地視察（奈良県 11月14日～15日 第3回委員会）

県と市町村が連携して行政の効率化や地域の活力の維持・向上を図る取組を進めている奈良県への視察を行った。奈良県庁、奈良県広域消防組合、南和広域医療企業団を訪問し、それぞれの担当者から「奈良モデル」と言われる自治体間の連携を基本とした取組をお聞きした。視察を通じて、公民連携における県と市町村等のあり方等について、多くのヒントがあった。

(8) 未来経営研究会（活動テーマ 『ブランド力構築』～選ばれる栃木県企業になるために～）

代表世話人 古口 勇二

副代表世話人 安藤 寛樹、猪瀬 義弘、佐藤 伸之、佐山 良一、  
関 雅樹、中村 雄三

事務局担当 鈴木 真悟

<活動方針>

近年、人口減少を背景に地方企業は労働力を確保することが困難になってい

る。栃木県は「MADE IN とちぎ」を担う製造業等が非常に多くその魅力を今後継続して発信していくことにより、栃木県企業としてのブランド力が構築されていくものとする。これらを踏まえ、多くの人々に栃木県企業として選ばれるためにはどうするべきか。「強み」を得るための視察を積極的に行い、企業ブランド構築に必要な学びを得る。

#### <活動概要>

##### ①講演会（6月4日）

㈱光洋代表取締役の生方玉也氏に講演をいただいた。生方氏は大手家電メーカー関連会社に入社し、半導体の製造を経験。その後、36才でシンガポール・ベトナムにて社長を経験し、その後も東京大学発のベンチャー企業の常務、人材派遣会社2社の社長、自動車の内外装部品の開発・製造会社の社長を経て現在の㈱光洋の社長を務めるという国内外企業の経営者として幅広い経歴を持つ。「当たり前」の目標を掲げて達成できるまで徹底的に取り組むと企業文化がブランドになる」といった内容は非常に参考になり、有意義な講演となった。

##### ②国内視察（千葉県 7月25日～26日）

千葉のちから（千葉県表彰事業）「中小企業表彰」受賞の「㈱やます」（平成25年受賞）、「しのはらプレスサービス㈱」（平成30年受賞）の視察を行った。両社共、独自の経営手法によりコアコンピタンスを確立し、業界内で確固たる地位を得ており、ブランド力向上という当会の研究テーマにおいて、大変参考になる視察となった。

##### ③講演会（12月8日）

栃木の農産物全体のPRや販路拡大につなげる事業を行っている一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会理事長安納義雄氏に講演をいただいた。いちごを始めとするとちぎの農産物をブランド化し付加価値をつけるマーケティング手法や取組をお話いただき、非常に参考となる講演であった。

##### ④同友 café（通年）

当会への入会を検討している方や、栃木県での就職を検討している方に、情報発信の場として番組を作成、インターネット上で放送を行った。計11回、22人の会員に御協力いただき、当会や会員の所属企業の紹介等を行った。

#### (9) 栃木交流研究会（活動テーマ「栃木の歴史と文化に触れる」）

会長 大曲 圭一郎

副会長 遠藤 哲也、北上 和博、戸田 博之、長谷部 周彦、  
松本 雄一郎、吉田 範行、渡邊 肇

事務局担当 栗原 利幸

#### <活動方針>

栃木県の歴史、文化、観光等に関する調査・研究を行い、「栃木の魅力」について情報を発信していく。

#### <活動概要>

##### ①第1回視察「那須塩原市方面視察」（10月29日）

・視察先：飯塚邸、ライドエクスペリエンス

那珂川町にある㈱大田原ツーリズムが運営している飯塚邸を視察。外観は歴史を感じる風情ある建物で、江戸時代に建てられた屋敷や蔵を残し、内装は現代風に改装し寝室のほかリビングやキッチンも備えた長期滞在型の施設となっており、とても魅力のある施設である。午後は、昨年実施できなかった里山サイクリングを体験した。当日は小雨が降る中、前半は登り坂・後半は下り坂が多い20kmのコースを約2時間かけて走行した。

##### ②第2回視察「奥鬼怒八丁の湯、若竹農場視察」（11月29日～30日）

・視察先：八丁の湯、若竹農場

栃木・群馬・福島県の県境にある奥鬼怒八丁の湯に宿泊。夕食後、社長から、4代目になった経緯、八丁の湯の歴史、設備、外国人雇用の問題等について話を伺った。

2日目は日光金谷ホテルで昼食、午後は宇都宮市にある若山農場を視察。散策マップを片手に若山社長の案内で、孟宗竹や黒竹、亀甲竹などのエリアを散策。2日間にわたる視察は事故もなく、天候にも恵まれ、参加者同士の親睦を深めた。

##### ③ラジオ番組「Tuesday Talking Bar」の制作・放送（10月～12月）

栃木の魅力の情報発信は、マスコミと連携して取り組むことが重要であることから、ラジオ番組の制作・放送を実施した。

番組タイトルは、「Tuesday Talking Bar」（全14回）。転勤族から見た栃木の自然、文化、食など栃木について語り合い、ラジオ放送を通じて、多くの方々に栃木の魅力を伝える番組。

#### (10) サマーセミナー

会員研修及び首都圏在住の栃木県出身者の若者（社会人及び学生）との交流を目的として開催するサマーセミナーを次のとおり実施した。

開催日：7月5日（金）

場 所：東京都千代田区「都道府県会館」

内 容：第1部 講演会



演 題：「学生での起業？働くとは何か？

若者が求める日本の働き方改革を」

講 師：間下 直晃氏（㈱ブイキューブ 代表取締役社長 CEO）

第2部 若者とのグループワーク

テーマ①：「どんなスキルや想いをもった若者に魅力を感じるか？」

テーマ②：「どんな魅力があれば、栃木県で働きたいか？」

#### (11) 広報活動

当会の活動について、広くかつ分かりやすく発信するため、季刊誌「同友」を発行し、会員をはじめとする企業経営者や有識者、メディア関係者、関係団体、本県出身国会議員、県議会議員、行政担当者等へ配付した。（発行部数：各520部）

また当会の公益事業活動情報を広く県民へ発信するため、HPの内容の充実に取り組んだ。

### 6. 社会貢献事業（公2：公益目的事業）

#### (1) 災害時応急対策業務実施協定事業

県内外において災害が発生し、支援物資が必要となった場合に、会員企業の持つ物資等を県からの要請に基づき、有償・無償にて提供するため、栃木県と「災害時における応急対策業務の実施に関する協定」を締結し、実施している。

※災害時の会員企業独自の対応として、別紙のとおり令和元年10月に本県に大きな被害をもたらした台風19号の被災者支援活動を行った。

#### (2) ボランティアプロフェッサー事業

平成24年3月28日に締結した「大学コンソーシアムとちぎと社団法人栃木県経済同友会との講師派遣事業に関する協定」に基づき、宇都宮大学、作新学院大学及び白鷗大学の3校へ延べ23名の講師を派遣した。

#### (3) 教員の社会体験研修受入事業

県教育委員会からの依頼に基づき、1年研修の教員9名を9社の会員企業が受け入れ、研修を実施した。

#### (4) 教員採用試験面接委員派遣事業

県教育委員会からの依頼に基づき、公立学校新規採用教員選考試験面接委員として会員企業51社から延べ62名の面接委員を次のとおり派遣した。

開催日：8月18日（日）～20日（火）

場 所：総合教育センター、宇都宮工業高等学校

(5) 講師派遣事業

次世代を担う若者を健全でたくましく育成していくため、小学校・中学校・高等学校及び校長会・教頭会で合わせて27講演を実施し、延べ39名を講師として派遣した。

(6) 表彰事業

本県の発展、産業の振興や地域活性化に貢献している経営者等を表彰するため、表彰事業対象者の推薦について新聞等で広く呼びかけ、3月に各賞受賞者を決定するための選考委員会を開催した。選考結果は次のとおり。

- ①優秀経営者賞 仁科 捷哉氏 (株真岡製作所 代表取締役)
- ②優秀起業家賞 松本 裕功氏 (株CULTURE BANK STUDIO 代表取締役)
- ③社会貢献活動賞 特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク
- ④美しいまちづくり賞 日光メープルの森づくり

(7) 新春経済団体講演会事業

栃木県産業振興センター、栃木県商工会議所連合会、栃木県中小企業団体中央会等17団体からなる経済団体新春講演会実行委員会(委員長:中津正修筆頭代表理事)は、本県産業の発展に資することを目的に、次のとおり新春経済講演会を開催した。

開催日:1月22日(水)

演題:2020年 日本経済の展望

～誰も語らない日本経済の行方 輝く地域、輝く企業は?～

講師:渋谷 和宏 氏

(作家・経済ジャーナリスト)

参加者:約500名

7. 講演会事業(公3:公益目的事業)

本県産業の振興その他活力ある地域社会の形成を図るため、広く一般県民を対象として、経済問題や社会問題の専門家や学識経験者等を招いた講演会等を6回開催した。

①県との共催講演会

開催日:5月14日(火)

場所:ホテル東日本宇都宮

演題:頑張れ日本の中小企業

講師:橋本 久義 氏(政策研究大学院大学 名誉教授)

参加者:350名

②第1回講演会

開催日：6月21日（金）

演 題：「がんばらない」けど「あきらめない」～生きることの意味～

講 師：鎌田 實 氏（医師・作家）

参加者：200名

③県との共催講演会

開催日：7月20日（土）

演 題：画家のセルフ・ブランディング

講 師：林 洋子 氏（美術史家）

参加者：75名

④国際化推進委員会提案講演会

開催日：8月7日（水）

演 題：新しい就労ビザ「特定技能」

講 師：崔 聖植 氏（崔国際行政事務所 行政書士）

参加者：60名

⑤新春経済団体講演会（再掲）

開催日：1月22日（水）

演 題：誰も語らない日本経済の行方 輝く地域、輝く企業は？

講 師：渋谷 和弘 氏（作家・経済ジャーナリスト）

参加者：約500名

⑥第2回講演会（産業政策委員会提案講演会）

開催日：1月30日（木）

演 題：地球と共存する経営

講 師：小林 喜光 氏

（株）三菱ケミカルホールディングス取締役会長／公益社団法人  
経済同友会前代表幹事）

参加者：212名

8. 会員研修事業（他1：共益事業）

（1）モーニングセミナー

令和元年度の講演テーマを「発信！とちぎ自慢」とし、1月と8月を除く毎月第2水曜日に会員を対象に次のとおり開催した。

なお、このテーマ以外に優秀経営者賞受賞者講演、経済講演、栃木県からの行政情報提供等を実施した。出席者数は延べ528名に上った。

	開催日	内 容	参加者
1	4月10日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：「経営者はガンで死んでも、ボケてもいけません！」 講 師：医療法人D I C宇都宮セントラルクリニック 理事 佐藤 俊彦 氏	56
2	5月8日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：「地域と共に歩むプロバスケットチーム 栃木ブレックス」 講 師：株式会社栃木ブレックス 代表取締役社長 鎌田 眞吾 氏	57
3	6月12日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：「皮から革へ タンニン鞣しの極意」 講 師：栃木レザー株式会社 代表取締役社長 山本 昌邦 氏	60
4	7月10日	テーマ：「優秀経営者賞受賞者講演」 演 題：「地域に根ざして次世代に継承する」 講 師：株式会社オーベルジュ 代表取締役 音羽 和紀 氏	64
5	9月11日	テーマ：「経済講演」 演 題：「地域経済の現状と課題、今後の展望 ～あしぎん総研オリジナル調査から見える地域の経済情勢～」 講 師：株式会社あしぎん総合研究所 チーフエコノミスト 主席研究員 豊田 晃 氏	51
6	10月9日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：「世界からとちぎへ！ 栃木県に訪日客は呼べるのか？」 講 師：ジャパン・ワールド・リンク株式会社 代表取締役 CEO 宮地 アンガス 氏	58
7	11月13日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：「栃木県産業技術センターの“イチ押し技術”」 講 師：栃木県産業技術センター 所長 平出 孝夫 氏	63
8	12月11日	テーマ：「発信！とちぎ自慢」 演 題：『「世界一の品質を世界のすみずみへ」』	60

		<p style="text-align: center;">～ THE BEST QUALITY IN THE WORLD, TO THE WORLD. ～</p> <p>講師：マニー株式会社 取締役兼代表執行役社長 高井 壽秀 氏</p>	
9	2月12月	<p>テーマ：「栃木県行政情報」 演題：「栃木県の産業政策について」 講師： 栃木県産業労働観光部長 小竹 欣男 氏</p>	59
10	3月11日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

## (2) 新年例会

筆頭代表理事から年頭所感及び新年度の活動方針を発表する新年例会を次のとおり開催した。

開催日：1月10日（金）

場 所：宇都宮東武ホテルグランデ

参加者：126名

## (3) 全国経済同友会事業

### ①第32回全国経済同友会セミナー

「新時代へのイノベーション～ポスト平成の成長戦略を描く～」をテーマとする第32回全国経済同友会セミナーが新潟県新潟市において次のとおり開催され、全国の経済同友会から約1,300名の会員が参加した。当会からは53名が参加した。

開催日：4月11日（木）～12日（金）

場 所：新潟市 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

内 容：

<第1日 4月11日>

○オープニング・挨拶

○基調講演

テーマ：新元号を迎える多様性社会

講 師：落合 陽一氏

(ピクシーダストテクノロジーズ(株)代表取締役 CEO)

○分科会（第1～第4分科会）

①超スマート社会がもたらす恩恵、②新時代のサステナブルマネジメント、③日本教育のパラダイムチェンジ、④モノ・コト・ヒトの交流が生み出すイノベーション

○懇親パーティ

<第2日 4月12日>

○分科会報告

○総括挨拶

○特別講演

テーマ：ときめきのとき～文化とは～

講師：宮田 亮平（文化庁長官・金工作家）

○エンディング

## ② 2019年度全国経済同友会事務局長会議

全国経済同友会事務局長会議が次のとおり開催された。

開催日：9月12日（木）～13日（金）

場所：鹿児島市 城山ホテル鹿児島

議事：第32回全国経済同友会セミナーの収支報告

第33回全国経済同友会セミナーの企画案

事務局長会議及び代表幹事円卓会議の今後の開催予定等

講演会：演題「幕末維新の薩摩」

講師 株島津興業 代表取締役社長 島津 忠裕 氏

視察：鹿児島市鶴丸城御楼門建設現場、桜島、福山町坂元醸造

## ③ 2019年度全国経済同友会代表幹事円卓会議

2019年度全国経済同友会代表幹事円卓会議が、次のとおり開催された。第32回全国経済同友会セミナー新潟大会の収支報告を行い、満場一致で承認された。また、第33回土佐大会の企画案、第34回熊本大会の日程変更案等が承認された。

開催日：10月28日（月）

場所：滋賀県大津市 びわ湖大津プリンスホテル

議事：全国経済同友会セミナーの運営について他

講演会：演題 「『ひとり』の覚悟」

講師 宗教学者・哲学者 山折 哲雄 氏

## 9. 親睦会事業（他2：共益事業）

会員の親睦を図るため、サマーセミナー2日目にエクスカージョンを開催したほか、ゴルフ大会を実施した。

### (1) 令和元年度 第1回ゴルフ大会

開催日：5月25日（土）

場所：唐沢ゴルフ倶楽部 三好コース

参加者：33名

### (2) サマーセミナーエクスカージョン

開催日：7月6日（土）

場所：東京港・豊洲有明インフラめぐりツーリズム

参加者：26名

(3) フェスティバル in オータム

開催日：10月11日（金）

場 所：宇都宮グランドホテル

参加者：72名

(4) 令和元年度 第2回ゴルフ大会

開催日：10月26日（土）

場 所：日光カンツリー倶楽部

参加者：33名

### Ⅲ. 会合別参加人数

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

	会合名	会合数	参加者
1	総会	1	112
2	理事会	4	58
3	幹事会	2	71
4	企画運営委員会	6	133
5	産業政策委員会	6	359
6	同委員会正副委員長会議	4	38
7	地域振興委員会	3	64
8	同委員会正副委員長スタッフ会議	4	42
9	経営問題委員会	3	64
10	同委員会正副委員長会議	3	22
11	社会問題委員会	4	74
12	同委員会正副委員長スタッフ会議	4	22
13	国際化推進委員会	3	97
14	同委員会正副委員長会議	3	26
15	社会貢献活動推進委員会	3	48
16	同委員会正副委員長会議	2	17
17	講師派遣事業	27	39
18	行財政改革委員会	3	38

19	同委員会正副委員長・スタッフ会議	2	15
20	プロスポーツホームゲーム観戦事業	3	61
21	未来経営研究会通常総会	1	39
22	同研究会例会	3	90
23	同研究会世話人会	2	35
24	栃木交流研究会	4	50
25	同研究会正副会長会議	1	9
26	サマーセミナー	1	91
27	サマーセミナー（エクスカーション）	1	26
28	フェスティバル in オータム	1	72
29	ボランティアプロフェッサー事業	23	23
30	教員採用試験面接委員派遣事業	3	62
31	表彰選考委員会	1	11
32	講演会	6	1,397
33	モーニングセミナー	9	528
34	新年例会	1	130
35	全国経済同友会セミナー	1	41
36	ゴルフ大会	2	66
	合 計	150	4,070

#### IV. 会員の推移

##### 1. 平成27年度から令和元年度までの5年間における会員の推移

	年 度	期首	増加	減少	期末
1	平成27年度	258	17	10	265
2	平成28年度	265	12	8	269
3	平成29年度	269	22	15	276
4	平成30年度	276	10	7	279
5	令和元年度	279	9	11	277
	合 計		70	51	



## 2. 会員増強事業

会員増強活動の結果、令和元年度は次のとおり9名の新規入会者を迎えた。

(敬称略・申込順)

	入会者	企業(団体)名	役職名
1	いしかわ ひであき 石川 英章	(株)リクルート北関東マーケティング	栃木支社長
2	はまなか やすひろ 濱中 康宏	(株)エフ・エー・エス	代表取締役社長
3	おくざわ けんじ 奥澤 健二	奥澤産業(株)	代表取締役社長
4	との しゅんすけ 戸野 俊介	弁護士法人戸野・田並法律事務所	代表弁護士
5	おおはし ひでき 大橋 英樹	(株)ビッグ・ビー	代表取締役社長
6	さがら のりお 佐柄 則雄	(株)ランドグラン	代表取締役
7	たかく たかし 高久 貴至	イートランド(株)	取締役代表
8	よこた けいすけ 横田 慶介	(株)三菱UFJ銀行 大宮支店	支店長
9	とみづか たもつ 富塚 保	七浦建設(株)	代表取締役

## 3. 会員の異動

(1) 会員の交代について

①理事の交代

変更前

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	すずき こうじ 鈴木 浩司	本田技研工業(株)パワートレインユニット製造部	製造部長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	えんどう かつみ 遠藤 克実	本田技研工業(株)パワートレインユニット製造部	製造部長

②幹事の交代

変更前

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	させ あつし 佐瀬 敦	(株)東武宇都宮百貨店	代表取締役社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	もり とおる 守 徹	(株)東武宇都宮百貨店	代表取締役社長

③理事・幹事以外の会員の交代

変更前

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	おかだ としはる 岡田 敏治	(株)竹中工務店	栃木営業所長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	さかい たかゆき 酒井 孝征	(株)竹中工務店	栃木営業所長

変更前

	氏名	企業名	役職名
2	はた つよし 畑 剛司	アルファクラブ(株)	常務取締役

変更後

	氏名	企業名	役職名
	かんだ まさたけ 神田 昌毅	アルファクラブ(株)	専務取締役

変更前

	氏名	企業名	役職名
3	さとう まさふみ 佐藤 政文	損害保険ジャパン日本興亜(株)栃木支店	支店長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	おおいそ たかお 大磯 崇雄	損害保険ジャパン日本興亜(株)栃木支店	支店長

変更前

	氏名	企業名	役職名
4	こおり 郡 ひろとし 博敏	(株)東芝 関信越支社	支社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	かしお 榎尾 たつや 竜哉	(株)東芝 関信越支社	支社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
5	くるまや 車谷 ひであき 秀明	明治安田生命保険(相)宇都宮支社	理事 支社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	いずみたに 泉谷 なおき 直樹	明治安田生命保険(相)宇都宮支社	支社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
6	さくらい 櫻井 じゅん 順	パナソニック ホームズ北関東(株)	代表取締役社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	いまい 今井 けんじ 健次	パナソニック ホームズ北関東(株)	代表取締役社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
7	こいずみ 小泉 よしひさ 芳久	日本通運(株) 宇都宮支店	支店長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	あずま 東 じゅんじ 順治	日本通運(株) 宇都宮支店	支店長

変更前

	氏名	企業名	役職名
8	せきね ふさみ 関根 房三	(株)エフエム栃木	代表取締役社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	かがわ まさし 香川 眞史	(株)エフエム栃木	代表取締役社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
9	きたむら みつひろ 北村 光弘	(株)横倉本店	代表取締役会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	よこくら しょういち 横倉 正一	(株)横倉本店	代表取締役社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
10	あらい まさよし 新井 将能	栃木トヨタ自動車(株)	代表取締役社長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	あらい たかのり 新井 孝則	栃木トヨタ自動車(株)	代表取締役社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
11	やまだ よしはる 山田 義治	(株)スキット	代表取締役会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	はせがわ しんや 長谷川 真也	(株)スキット	代表取締役社長

変更前

	氏名	企業名	役職名
12	ほその しんや 細野 真哉	(株)常陽銀行 宇都宮支店	支店長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	おおぶ ひろし 大部 浩	(株)常陽銀行 宇都宮支店	支店長

変更前

	氏名	企業名	役職名
13	いなみ えいいち 稲見 英一	(株)ホテル東日本宇都宮	総支配人

変更後

	氏名	企業名	役職名
	たばた やすたけ 田端 快健	(株)ホテル東日本宇都宮	取締役 総支配人

変更前

	氏名	企業名	役職名
14	いとう しょうじ 伊藤 正二	(株)インフェック	代表取締役会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	うさみ だいち 宇佐美 大地	(株)インフェック	常務取締役

(2) 特別会員の交代

①経済団体の長の交代

変更前

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	おおかわ よしひろ 大川 吉弘	(一社)栃木県商工会議所連合会	会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	ますぶち しょうじ 増渕 正二	(一社)栃木県商工会議所連合会	会長

変更前 (敬称略)

	氏名	企業名	役職名
2	ますぶち しょうじ 増 瀧 正 二	(一社) 栃木県商工会議所連合会	会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	ふじい しょういち 藤 井 昌 一	(一社) 栃木県商工会議所連合会	会長

変更前 (敬称略)

	氏名	企業名	役職名
3	わたなべ ひでお 渡 邊 秀 夫	栃木県中小企業団体中央会	会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	さいとう こうぞう 齋 藤 高 藏	栃木県中小企業団体中央会	会長

変更前 (敬称略)

	氏名	企業名	役職名
4	ふじい しょういち 藤 井 昌 一	栃木県産業協議会	会長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	ほさか まさひろ 保 坂 正 裕	栃木県産業協議会	会長

## ②大学等の長の交代

変更前 (敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	うえの けんじ 上 野 憲 示	文星芸術大学	理事長・学長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	ちば てつや	文星芸術大学	学長

変更前

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
2	うえの たかこ 上野 孝子	宇都宮文星短期大学	学長

変更後

	氏名	企業名	役職名
	なかやま みよし 中山 御由	宇都宮文星短期大学	学長

### (3) 会員の退会

(敬称略・届出順)

	氏名	企業名	役職名
1	はやし みきお 林 幹夫	(株)林	代表取締役
2	よしあら あきお 吉新 旦夫	(株)吉新組	代表取締役社長
3	こまば ひでのり 駒場 偉哲	(株)レスポ	代表取締役
4	かねこ ゆうじ 金子 裕司	(株)三樹	専務取締役
5	すずき ひであき 鈴木 秀明	(株)鈴和	代表取締役社長
6	くりた まもる 栗田 司	栗田工業(株)	取締役会長
7	なかじま ひろし 中島 泰史	石橋建設工業(株)	代表取締役
8	さくま のぶお 佐久間 信夫	栃木砒業(株)	代表取締役
9	たむら みのる 田村 実	(株)太陽警備保障	顧問
10	あくつ ひろき 阿久津 浩樹	(株)エバーグリーン	代表取締役

(4) 会員資格の喪失

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	いたばし としお 板橋 敏雄	(株)板通	名誉会長

(5) 協力会員の退会

① 名誉理事

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	いたばし としお 板橋 敏雄	(株)板通	名誉会長

② 名誉会員

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	ふなつ あきら 船津 祥	公益財団法人とちぎYMCA	名誉理事

③ 準会員

(敬称略)

	氏名	企業名	役職名
1	なかむら さとし 中村 悟志	(株)アクティチャレンジ	専務取締役
2	しぶい まこと 渋井 誠	企業OB	—



別紙

## 令和元年度台風 19 号被災者支援活動について

栃木県経済同友会会員企業が、令和元年度台風 19 号での被災者に対して行った支援活動は、以下のとおり。

支援活動期間は、被災日(令和元年 10 月 12 日)から令和元年 12 月 12 日まで

### 1 支援活動内容

(1) 支援金・義援金の提供	15 社 (45.5%)
(2) 自社サービスの提供	11 社 (33.3%)
(3) 家屋等の泥出し、片付け支援	6 社 (18.2%)
(4) 社員のボランティア派遣	5 社 (15.2%)
(5) 支援金・義援金の提供	4 社 (12.1%)
その他	11 社 (33.3%)

(回答があった 33 社の内訳、複数回答あり)

### 2 自社サービスの提供内容

- (1) 場所の提供： ・被災した認定こども園に対し、大学校舎の提供
- (2) 相談・情報等： ・休業を余儀なくされた事業主向け雇用調整／労務管理に関する相談支援／復興支援相談窓口の設置  
／災害情報、避難情報、生活情報の報道  
／助成金等の案内
- (3) ライフライン： ・給水車両の出動、給水支援／電力復旧作業
- (4) 現場支援： ・ボランティアバスツアーの実施／車両の引上げ
- (5) モノ： ・衛星電話・携帯電話の貸し出し  
／復興支援関連融資商品の提供

### 3 その他の支援内容

食事支援（炊き出し等を含む）、災害ゴミの収集、避難所運営に関する支援、他企業の復興支援、給食ボランティア、音楽ボランティア、公共物の復旧工事、避難所開設、緊急避難情報の報道、道路点検・清掃、河川点検・修繕、下水道調査・清掃、土のう袋作成等

出典：とちぎ協働推進研究会報告書 2018～2019 年度  
(とちぎボランティアNPOセンター)